

湊地区の紹介

【湊地区の概要・歴史】

福井市街地の西部に位置する湊地区は4つの区で構成され、交通の便が良く、閑静な住宅街が広がっています。中心街に近いことからマンションが多く、学生や外国人居住者が多いのも特徴です。地区を東西にさくら通りが貫き、足羽川沿いには桜の開花時期に「桜のトンネル」として有名になった照手・木町さくら並木通りがあり、自然が豊かな地区でもあります。



江戸時代には、足羽川沿いに船着き場があり、米や塩、木材などの取引で繁栄しました。「湊」の地区名の由来であり、今も「塩町」「木町」などの自治会名が残っています。また、江戸末期の歌人、橘曙覧が住んでいた「藁屋」跡や福井藩家老、松平主馬の別邸「三秀園」跡、坂本龍馬と三岡八郎（後の由利公正）が会談した旅館「苺（たばこ）屋」跡などの史跡が多くあります。

人口： 8,900人（男 4,396人、女 4,504人）

世帯数： 4,094世帯 自治会数： 99

65歳以上の高齢化率： 29.83%（いずれも平成29年7月1日現在）

【湊公民館の概要】

所在地： 〒910-0028 福井市学園1丁目4-8

電話・FAX： 0776(22)0032

MAIL： minato-k@mx1.fctv.ne.jp

ホームページアドレス：

<http://minato-cc.sakura.ne.jp/wpl>

【湊公民館の歴史】

昭和25年 西公園内にあった西部会館で、湊分館として公民館活動を開始

35年 独立館として湊公民館が発足

41年 三秀プール管理棟の改築を機に、管理棟2階に移転

55年 湊小学校南側に新築、移転

平成14年 増改築が完成

【主な公民館活動】

◎自主グループ

女声コーラス（コーラス華）、パッチワーク、詩吟、英会話、パソコン、スティックリング、フォークギター、コーラス（湊たちばな童唱会）、ロマンドール、生花、スポーツダンス、押し花（はな花会）、カラオケ（芽吹き歌謡音楽教室）、太極拳（武林会）、フラダンス（ペアポノ）、フロアーカーリング、ソフトヨガ、俳句、囲碁

◎まちづくり事業

○越前湊さくら祭 毎年4月初めに「桜のトンネル」で有名な足羽川右岸の照手・木町さくら並木通りで開催。飲食関係や土産物など約30の露店が並び、ステージ発表も行われる。夜は提灯と行燈で並木通りをライトアップし、平成28年の福井市景観賞を受賞した。



◎地区事業

○湊フェスティバル（湊ふれあい福祉まつり）湊公民館と湊小学校が隣接していることから両会場で毎年10月に開かれる。地域・福祉功労者を表彰したり、公民館自主グループの作品展示、ステージ発表、各種団体による出店などでにぎわう。

○防災合同訓練大会 湊地区には照手、中狭、花月、丹鳥、日光の5つの自主防災会があり、毎年6月に合同で防災訓練を実施している。



◎教育事業

○三秀大学 豊かな健康・長寿社会を目指し、館外学習や体力づくり、そば打ち体験、ミニ門松作りなど年7回程開催している。

○サタデースクール 湊小学校の児童を対象に野外活動や地域に根差した活動を通し、健全な精神を養い、異学年との交流を深める。

○郷土学習 ふるさとの歴史探訪「みなと塾」と共同で、郷土歴史講演会や館外研修などを行っている。

○エコ学習 生ごみコンポストやリサイクルの小物作り、ごみ減量作戦講習会などを実施し、環境意識を高めている。

○家庭教育支援講座 食育教室やクリスマスコンサート、みそ作りなど親子での体験学習や保護者向けの学習・交流会を通して家庭教育の充実・強化を図る。

歴史と景観を生かしたまちづくり

— であい ふれあい まなびあい —

湊公民館

1 湊地区の概要

福井市中心市街地の西部に位置する湊地区は、交通の便がよく4つの区で構成され、閑静な住宅街が広がっている。中心街に近いことからアパートやマンションが多く、大学生や単身者、外国人居住者が多いことも特徴である。地区を東西にさくら通りが貫き、足羽川沿いには桜の開花時期に「桜のトンネル」として有名になった照手・木町さくら並木通りがあり、自然環境にも恵まれた地区である。

江戸時代には、足羽川沿いに船着き場の河戸(こうど)があり、米や塩、木材等の取引で繁栄した。「湊」の地区名の由来であり、今も「塩町」「木町」等の自治会名が残っている。また、江戸末期の歌人、橘曙覧が住んでいた「藁屋(わらや)」跡や福井藩家老、松平主馬(しゅめ)の別邸「三秀園」跡、坂本龍馬と三岡八郎(後の由利公正)が会談した旅館「菘(たばこ)屋」跡など数多くの史跡がある。平成21年には、当時の三秀プール前の足羽川堤防に「福井藩十二ヵ月年中行事絵巻」のレリーフが設置され、歴史のロマンを見ることができる。

令和6年4月1日現在、人口は8,415人、世帯数は4,246戸である。

2 桜並木を生かした祭り

(1) 春の風物詩「越前湊さくら祭」

足羽川沿いの福井市照手1～3丁目の市道(照手・木町さくら並木通り)脇に植えられた桜の並木は地域の誇りである。春には「桜のトンネル」がお目見えし、訪れる人の目を奪う。「この名所を生かして湊地区ならではのイベントを」と、平成14年に始まった「越前湊さくら祭」は、今ではすっかり春の風物詩となり、毎シーズン地区内外の大勢の人でにぎわう。

開花時期に合わせて毎年4月に開かれる祭りは、企画・運営に協力する実行委員を募集し、各種団体と地域住民が協力し合い、地域全体で積極的な活動を行って盛り上げる。さくら並木通りに湊地区の各種団体や

飲食業者ら約20の露店が出店する「さくら楽市」が並び、メインステージでは、歌や音楽の演奏、ダンスなどが披露される。

平成最後となる「第17回越前湊さくら祭」は、「平成(とき)が終わり、また『たのしみ』がはじまる——」をテーマに4月6日(土)に開催し、学生らが作った「越前湊さくら祭テーマソング」が発表された。また、「福井藩十二ヵ月年中行事絵巻」の前の歩道に、畳2畳分の栈敷席を設け、来場者が桜や十二絵巻を見ながらゆっくりと祭りを楽しめるようにした。

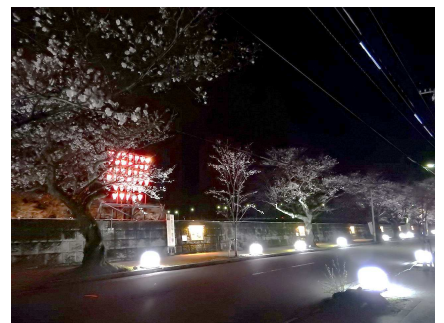
この祭りで、地区民の絆を強め、「湊の宝」を発信していきたい。また、付近の史跡を通じて地区の歴史についても知ってもらいたいと考えている。



(2) 桜並木を彩る「ライトアップ事業」

越前湊さくら祭の一環として、3月末から4月上旬の約2週間、さくら並木通りに設置された100基の行燈が午後6時から10時まで点灯され、夜桜を彩る。以前は、ぼんぼりを桜の枝に取り付けてライトアップしていたが、枝を守るために行燈に変えた。そこで、38個のぼんぼりを使って、かつて足羽川の船着き場に集まった船の帆をイメージして

「みなと竿燈(かんとろう)」を作った。「みなと竿燈」は、湊地区のシンボルとして、同じ期間中、春の夜空を幻想的に照らす。



このライトアップは、平成28年度に福井市景観賞の風景部門賞を受賞した。

3 学校・地域と公民館が連携した湊フェスティバル

学校と地域、公民館の融合を図るため、平成13年に湊公民館祭り(湊地区文化祭)と湊小学校PTAバザーを共催にして「湊フェスティバル」と名付けた。平成20年には湊ふれあい福祉まつりも統合し、湊公民館主催、湊地区自治会連合会連絡協議会・湊地区社会福祉協議会・湊小学校PTA共催で、隣接している地の利を生かし、公民館と湊小学校の二会場を使って開催している。

公民館会場では、湊公民館で活動している自主グループの発表や作品展示、また、社会福祉協議会等のブースが設けられる。小学校会場には、子ども会育成会や児童館・児童クラブ等の体験コーナー、小学生の作品やスポーツ少年団等の活動紹介の展示がある。体育館ステージでは、地区内の幼稚園や保育園・こども園の園児、光陽中学校吹奏楽部等が演奏や合唱、踊り等を披露する。湊小学校PTAによるバザーも行われる。



また、湊小学校グラウンドに両会場を結ぶ「MINATROD」を設けて両会場の行き来をしやすくし、参加者や来場者の交流を一層図ることができるよう工夫した。子どもからお年寄りまで大勢の人でにぎわい、楽しいひと時を過ごしている。

4 地区にゆかりのある橘曙覧の顕彰事業

(1) 橘曙覧没後150年記念祭

平成30年は、幕末福井の歌人で国学者の橘曙覧が死去してから150年の節目だった。湊地区には曙覧が20年間過ごし、終焉の地である藁屋跡(照手2丁目)がある。跡地には、妻が水くみの苦勞から解放されたのを喜び、歌を詠んだ井戸「袖干(そでひ)の井」が現存する。そこで、湊地区民による手作りの「橘曙覧没後150年記念祭」を8月末の2日間にわたり開催し、曙覧を偲ぶとともに功績をいかに伝えていくかを検討した。

1日目は藁屋跡において、福井市立郷土歴史博物館長(当時)で氣比神社(越前町)の宮司による神事が厳かに行われた。2日目は、湊公民館で記念イベントが開かれ、湊地区在住で福井市歴史ボランティア「語り部」相談役の記念講演で幕を開け、続いて福井市立郷土歴史博物館長と橘曙覧記念文学館の学芸員、橘曙覧

全国子孫会事務局の3氏が「曙覧をいかに伝えるか」をテーマに意見交換を行った。



また、記念事業の一環として、小学生とその保護者対象の「あけみウォークラリー」や湊公民館郷土学習「橘曙覧史跡めぐり～曙覧の生涯や歌を学ぶ～」を実施し、曙覧のゆかりの地や関連施設を巡った。

(2) みなと独楽吟の募集

平成30年の記念事業では、曙覧が詠んだ「楽しみは」で始まり「とき」で終わる短歌「独楽吟」にちなみ、「みなと独楽吟コンクール」を実施した。湊地区の人を対象に小学生・中学生・一般の部に分けて「みなと独楽吟」を募集し、入賞者を湊フェスティバルの開会式典で表彰、作品を展示した。橘曙覧の業績を顕彰し後世に伝えていくため、その後も毎年実施している。



5 終わりに

越前湊さくら祭を通して、若い人たちが地域活動に参画している。平成28年に、地区内外の40、50歳代の約50人が参加して湊まちづくり協議会が設立され、さくら祭の企画、運営に携わっている。行燈によるライトアップや「みなと竿燈」も同協議会のアイデアで実現した。従来のさくら祭とは様変わりしたことから、各種団体長らとの間で企画段階から活発な話し合いが行われた。そして、お互いに知恵を出し合いながら、より進化した祭が行われている。祭に訪れた人たちが喜んでくれる姿を見ると、苦勞も吹き飛び、次へのステップにつながる。

さくら祭や湊フェスティバルなどの事業を通し、地域の絆を強め、情報発信していきたい。その中から住みよいまちづくりが実現していくのだと思う。

市内でも最も早く防災会を結成して防災意識を高め、学童安全見守りプロジェクトの活動が知事表彰される等、安全・安心な地域づくりにも努めている湊地区。今後も、地区への愛着を深め、連帯感を高める活動を展開していただきたいと思っています。